

# 新潟県長岡市の大学連携（4大学1高専）と産学連携の挑戦——NaDeC（ナデック）構想について

長岡造形大学 地域協創センター長 教授  
NaDeC 構想推進コンソーシアム運営委員長 渡邊誠介

## 1. 長岡造形大学の視点：「デザイン思考」と

### 「デザイン経営宣言」から始まった4大学1高専連携

「デザイン思考」の黎明期は2004年頃であろうか。2005年にd.schoolがスタンフォード大学に創設され、Business Week誌が「design thinking」と題した特集号を発行し注目を集めるようになっていった。

一方、現在公立大学としては珍しいデザイン単科大学である長岡造形大学の変遷をたどってみたい。当校は1994年に長岡市と新潟県が土地、建物に出資し、大学法人が運営するという公設民営方式で設立された。しかし地方都市での私立デザイン系単科大学は経営的に厳しく、2010年ごろから学科の一部で定員割れが続いたこともあり、その後2014年に長岡市を設置者とする公立大学法人に移行した。この一連の運営主体の変化を伺う流れのなかで、単に色形の「デザイン」から、より一層「デザイン思考」の教育、研究ポテンシャルが長岡造形大学にあると確信した当時の和田裕学長（2012年4月～2020年3月）は、学内で「デザイン思考」を教育および大学経営の柱として位置づけ始めていた。さらに経済産業省・特許庁が2018年に「『デザイン経営』宣言」し、発明とイノベーションをつなぐデザインの役割を明確にしたことも大きい。筆者は当時大学院研究科長として長岡造形大学大学院の新カリキュラムを企画・運営していた。新しいデザイン教育には地域でのPBL（Project Based Learning）や学学連携、産学連携などの枠組み活用したオープンイノベーションの環境が必要不可欠であると考えていたこともあり、「『デザイン経営』宣言」は和田学長とともに我々を大いに鼓舞してくれた。

時間は若干さかのぼるが、長岡市政は2016年にそ

れまでの森民夫市長から磯田達伸市長体制となり、ここから長岡市では「イノベーション」を長岡地域で起こすための奮闘が始まった。人口27万人規模の都市には珍しい3大学1高専（後に4大学1高専）の高等教育機関の集積を地域の産業活性化により結びつけるべきであるとのアイデアである。長岡造形大学の公立化直後のことでもあり「デザイン思考」が注目され、まず2017年8月に磯田市長を筆頭に長岡造形大学の和田学長および教職員6名や長岡大学村山光博学長がシリコンバレーおよびd.schoolの視察を実施した。この経験は大きく、同年11月、長岡技術科学大学、長岡造形大学、長岡大学、長岡工業高等専門学校との3大学1高専がNaDeC（ナデック）構想とこれに合わせた「大手通表町東地区市街地再開発事業（仮称）」における長岡版イノベーションの事業提案を行うことになる。

## 2. 海外での大学連携と産学連携

小林によると、大学の統合や大学間連携などは1980年代以降世界的に活発化し、またその形態も多様化している\*1。その中でも、NaDeC構想に資する事例として考えられるフィンランドの事例と米国オーリン工科大学の事例をここで述べる。

### 1) イノベーション指向の大学創設とエコシステム創造——フィンランド

ヘルシンキ工科大学（創立1849年、学生数14763名（2002年））、ヘルシンキ経済大学（創立1640年、学生数37685名（2002年））、ヘルシンキ芸術デザイン大学（創立1871年、学生数1717名（2002年））は1995年から3大学共同でInternational Design Business